仙台市小学生交通環境学習推進委員会
第２回委員会

平成 22 年 11 月 10 日（水）
午前 13 時 00 分～15 時 00 分
ハーネル仙台　5F　いちょう

次　第

１．開　会
２．あいさつ
３．報告事項
（１）作業部会　実施概要の報告
４．議　　事
（１）　６年間を通した交通環境学習の目標について
（２）　交通環境学習の実施方針
（３）　今年度実施する授業計画（案）について
(4)その他
１）次回開催日程の確認
２）今後の予定

５．閉　会

資　料　　１　仙台市小学生交通環境学習について

参考資料　１　作業部会　実施概要

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　委員名簿

	所 属 ・ 役 職 名	氏　　名
委員長 学識経験者	東北工業大学 工学部建設システム工学科 准教授	菊池（きくち） 輝（あきら）
副委員長 学識経験者	宮城教育大学 大学院教育学研究科 教授	吉村（よしむら） 敏之（としゆき）
市民団体等	NPO法人 まちづくり政策フォーラム 理事	足立（あだち） 千佳子（ちかこ）
市民団体等	財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 理事	門田（かどた） 陽子（ようこ）
市民団体等	NPO法人 まなびのたねネットワーク 代表理事	伊勢（いせ） みゆき
小学校関係	仙台市立 鶴巻小学校 校長 （仙台市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習研究部会 会長）	米澤（よねざわ） 孝雄（たかお）
小学校関係	仙台市立 向山小学校 校長 （仙台市小学校教育研究会 社会科部会 会長）	高橋（たかはし） 享治（きょうじ）
行政機関	国土交通省東北運輸局交通環境部環境課 課長	鈴木（すずき） 義男（よしお）
行政機関	仙台市教育局学校教育部教育指導課 課長	堀越（ほりこし） 清治（せいじ）

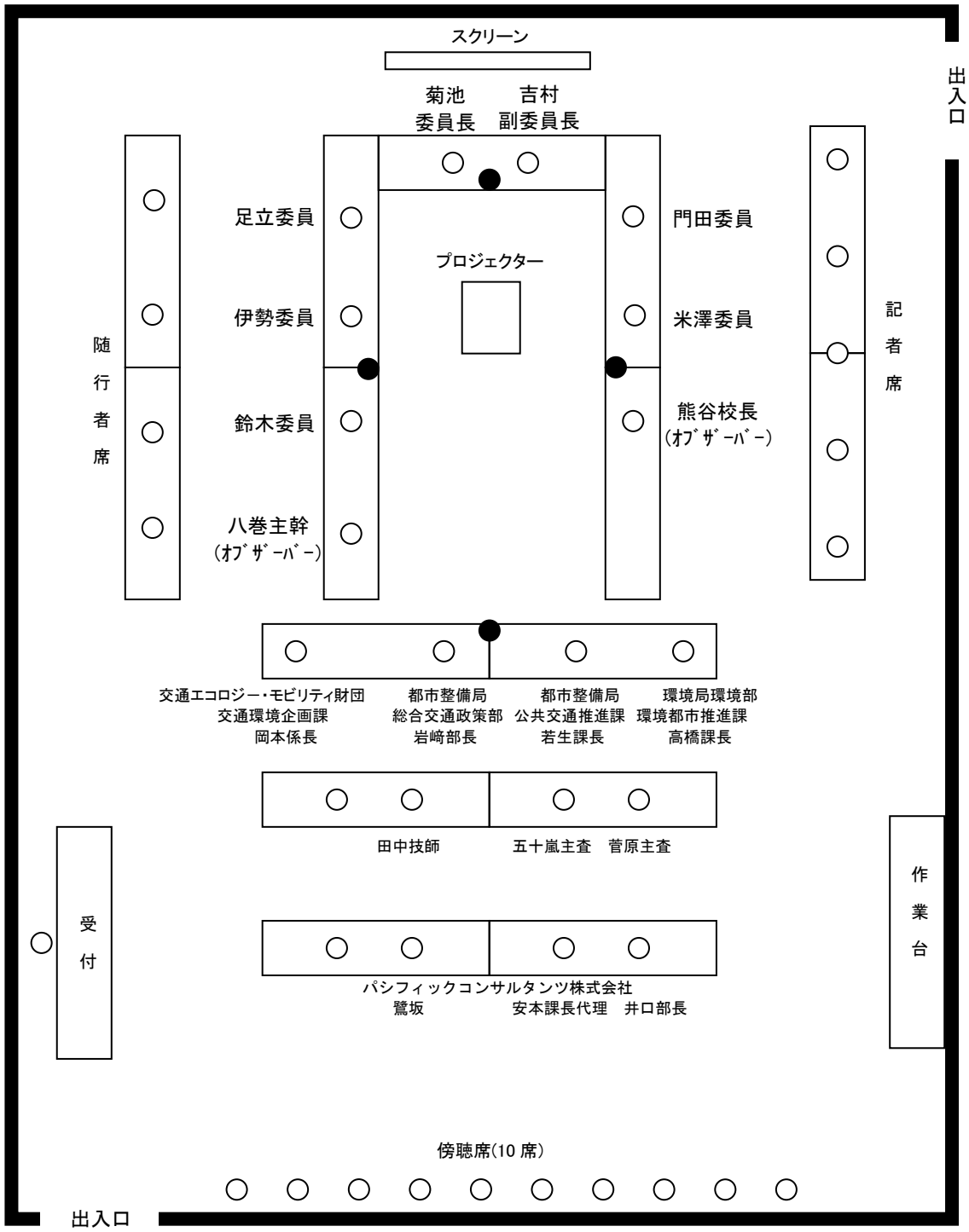
オブザーバー	仙台市立 広瀬小学校 校長	熊谷（くまがい） 和彦（かずひこ）
オブザーバー	仙台市教育局学校教育部教育指導課 主幹	八巻（やまき） 賢一（けんいち）

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　事務局出席者名簿

	所 属 ・ 役 職 名	氏　　名
事務局	交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境企画課　企画係長	岡本　英晃
	環境局環境部環境都市推進課　課長	高橋　泰
	都市整備局総合交通政策部　部長	岩﨑　裕直
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課　課長	若生　孝志
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課　主査	菅原　洋二
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課　主査	五十嵐　大
	都市整備局総合交通政策部公共交通推進課　技師	田中　仁
	パシフィックコンサルタンツ株式会社　東北支社	

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　第２回委員会　席次表

平成２２年１１月１０日(水)１３：００～
ハーネル仙台　５Ｆ　いちょう



資料　1

第2回
仙台市小学生交通環境学習推進委員会

＜小学生への交通環境学習について＞

平成22年11月10日

仙　台　市

目次

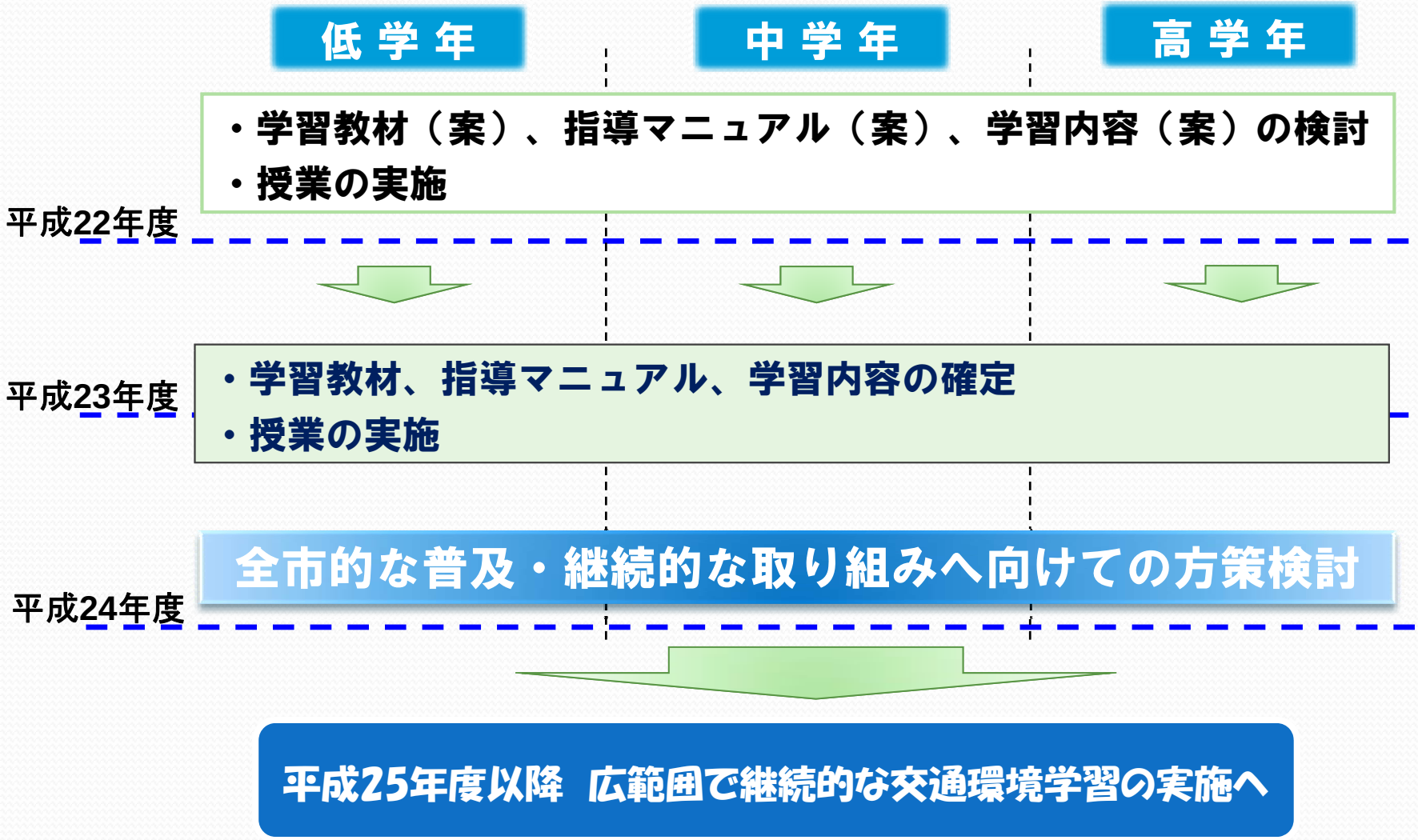
１　交通環境学習の目標

２　交通環境学習の実施方針

３　今年度実施する学習指導（案）

４　今年度のスケジュール

３年間の流れ


低学年
中学年
高学年
・学習教材（案）、指導マニュアル（案）、学習内容（案）の検討
・授業の実施
平成22年度
・学習教材、指導マニュアル、学習内容の確定
・授業の実施
平成23年度
全市的な普及・継続的な取り組みへ向けての方策検討
平成24年度
平成25年度以降　広範囲で継続的な交通環境学習の実施へ

１　交通環境学習の目標

■６年間を通した交通環境学習の目標

【全体の学習目標】

「公共交通を交通手段の
一つとして考えられる」

■各学年の学習目標と学習内容

	低学年	中学年	高学年
学習目的	**公共交通を 身近に感じる** 公共交通に親しみながら、公共交通に乗れるようになる	**公共交通で おでかけができる** 公共交通を使い、目的の場所まで行けるようになる	**公共交通を 賢く使える** ケースに合わせ、交通手段を賢く選択できるようになる
学習内容	・色々な交通手段を知る ・公共交通を知る ・バスの乗り方、降り方を学ぶ ・バスについての知識を知る ・公共交通マナーを知る	・公共交通でのおでかけ ◇目的地までの行き方を調べる ◇時刻、運賃等を調べる ◇実践する ・公共交通とまちづくりの関係を知る	・色々な交通手段のそれぞれの長所、短所を知る ◇環境面 ◇時間面 ◇安全面 ◇経費面 ◇健康面　等 ・公共交通の役割を知る ・交通手段の選び方を考える

２　交通環境学習の実施方針

■交通環境学習の実施方針（案）

【低学年】　国語　算数　生活　音楽　図工　体育　道徳　総合的な学習

【中学年】　国語　社会　算数　理科　生活・総合　音楽　図工
家庭　体育　道徳　総合的な学習

【高学年】　国語　社会　算数　理科　生活・総合　音楽　図工
家庭　体育　道徳　総合的な学習

交通環境学習

各校の授業計画の中に
“薄く、軽く、効果的に”組み込んでいく

各校の授業計画の中に
“薄く、軽く、効果的に”組み込んでいく

既存の授業内容に*交通環境学習をプラス*する

- ***負担を少なく“薄く、軽く”プラス***
  - ⇒ ***継続的*** かつ ***広範*** に取り組みやすくなる
- ***“効果的に”プラス***
  - ⇒ ***教材を工夫することで、***
    実効性の高いプログラムとして取り組んでいく

■交通環境学習の実施例（案）

低学年

【国語】
・じどう車くらべ
⇒公共交通機関を知る

【算数】
・時間や表とグラフ
⇒時刻表の見方を知る

【生活】
・まちたんけん
⇒乗車体験

中学年

【社会】
・仙台市のようす
⇒公共交通機関と
まちづくりの関係を知る

【道徳】
・地球にやさしくくらそう
⇒公共交通機関が環境に
やさしいことを知る

【社会】
・火事がおきたら
・水はどこから　　等
⇒公共交通機関での
おでかけ（計画、実践）

高学年

【総合的な学習】
・市内をたんけんしよう
⇒公共交通機関での
おでかけ（計画、実践）

【道徳】
・地球を救おう子ども会議

【社会】
・私たちの生活と環境

【理科】
・人と環境
⇒いろいろな交通手段の
長所、短所を理解する

3　今年度実施する学習指導(案)

■今年度実施する学習指導（案）

鶴巻小学校　１年生　【学習目的:公共交通を身近に感じる】

- 実施時期:12月
- 教科:国語・生活
- 学習内容:「自動車調べ」・「バス探検」
  ①いろいろな自動車の働きとつくり
  ②バスについて知ろう
  　バスの働きや仕組みを知る
  　バスの乗り方・降り方を学ぶ
  　バスのマナーを考える
  ③秋を探しに行こう
  （移動バス車内）　バスが環境にできることを知る
- 目的地:野草園(貸切バス利用)
- 学習教材・ツール:バスノート、バス(乗車体験)、紙芝居、バスクイズ

- 期待される成果
  - ・バスへの関心を高める
  - ・バスの乗り方、降り方を理解する
  - ・バスのマナーを理解する

- ＋αの学習内容（事務局提案）
  - ・目的地を変更する（バス車庫、地下鉄基地　等）
  - ・公共交通機関を知る（いろいろな乗り物、役割）

広瀬小学校　２年生

【学習目的：公共交通を身近に感じる】

- 実施時期：12月
- 教科：生活
- 学習内容：「広瀬やさしさ探検隊」
  ①近くの公共施設や公共物を探そう
  　身の回りにある公共施設や公共物を探す
  　公共施設や公共物の利用の仕方や働く人の思いを考える
  ②公共交通機関のバスについて知ろう
  　公共交通機関のバスの工夫や約束を知る
  ③広瀬図書館へ行こう
- 目的地：広瀬図書館（貸切バス利用）
- 学習教材・ツール：バスノート、バス（乗車体験）

- 期待される成果
  ・バスへの関心を高める
  ・バスの乗り方、降り方を理解する
  ・バスのマナーを理解する

- ＋αの学習内容（事務局提案事項）
  ・公共交通機関を知る（いろいろな乗り物、役割）
  ・バス移動車内でバスについての知識を知る

鶴巻小学校　３年生　【学習目的：公共交通でおでかけができる】

- 実施時期：2月
- 教科：社会
- 学習内容：「バスで出かけよう」
  ①バスについて知ろう
  　バスの運行や役割を知る
  　バスの乗り方やマナーを学ぶ
  ②バスに乗る計画を立てよう
  　バスの時刻表の見方を学ぶ
  　バスの乗り場、降り場、運賃を調べる
  ③バスに乗ってみよう
  　（移動バス車内）　バスを利用することの良さを知る
- 目的地：宮城県警察本部（貸切バス利用）
- 学習教材・ツール：バスノート、バス時刻表、バス路線図、おでかけ調べ、バス（乗車体験）、紙芝居、バスクイズ

- 期待される成果
  - ・学校から目的地までのバスでの経路を理解する
  - ・時刻、運賃の調べ方を理解する
  - ・公共交通機関への関心を高める
  - ・バスの乗り方、降り方を理解する
  - ・バスのマナーを理解する

  ※低学年で交通環境学習を行っていないため、本時のみ期待される効果

- ＋αの学習内容（事務局提案事項）
  - ・公共交通機関とまちづくりの関係を知る

広瀬小学校　４年生　【学習目的：公共交通でおでかけができる】

- 実施時期：12月
- 教科：社会
- 学習内容：「宮城県のことを調べよう」
  ①自分の住んでいる場所を確認しよう
  　自分の住んでいる場所を確認する
  　どこにどのような交通手段で行ったことがあるか確認する
  ②お出かけの計画を立ててみよう
  　行ってみたい場所を決める
  　どのような交通手段で行くか考える
  ③宮城県の交通の様子についてまとめよう
- 目的地：　－　（※校内学習のみ）
- 学習教材・ツール：宮城県の地図、わたしたちの宮城県、
  宮城県の交通網図

- 期待される効果
  - ・目的地までの公共交通機関での経路を理解する
  - ・宮城県の交通の様子を理解する
  - ・公共交通機関への関心を高める

  ※低学年で交通環境学習を行っていないため、本時のみ期待される効果

- ＋αの学習内容（事務局提案事項）
  - ・公共交通機関とまちづくりの関係を知る

鶴巻小学校　５年生

【学習目的：公共交通を賢く使える】

- 実施時期：12月
- 教科：総合的な学習の時間
- 学習内容：「仙台市内の公共施設を見学しよう」
  ①目的地を決めよう
  　グループごとに公共の交通機関での目的地までの行き方を調べ、
  　ルート（　～仙台駅～目的地～科学館～仙台駅～　）を決める
  ②ルートに沿って時刻と運賃を調べよう
  ③公共施設を見学しよう
  　公共交通施設を見学し、施設の概要や役割を把握する
  　公共の交通機関利用により、利用の仕方、公共的マナーを体得する
- 目的地：仙台市内の公共施設
- 学習教材・ツール：バス・地下鉄時刻表、バス・地下鉄路線図、おでかけ調べ

- 期待される成果
  - ・目的地までの公共交通機関での経路の調べ方を理解する
  - ・時刻、運賃の調べ方を理解する
  - ・公共交通機関への関心を高める
  - ・公共交通機関の乗り方、降り方を理解する
  - ・公共マナーを理解する

※低学年、中学年で交通環境学習を行っていないため、本時のみ期待される効果

- ＋αの学習内容（事務局提案事項）
  - ・これからのまちづくりと公共交通の関係を知る
  - ・いろいろな交通手段の長所、短所を知る
  - ・公共交通利用促進のためのポスターを制作する
  - ・小学校（または地域）バスマップを制作する

広瀬小学校　５年生

【学習目的：公共交通を賢く使える】

- 実施時期：2月
- 教科：社会
- 学習内容：「放送局の働き」
  ①放送局へ行くまでの交通手段の種類とそれぞれの特徴を知ろう
  　放送局へ行くまでの交通手段の種類を調べる
  　様々な交通手段の時間や料金等の特徴を調べる
  　様々な交通手段の環境への影響を知る
  ②放送局へ行こう
- 目的地：放送局（NHK）
- 学習教材・ツール：おでかけ調べ、移動についての計算シート

- 期待される成果
  - ・目的地までの公共交通機関での経路の調べ方を理解する
  - ・時刻、運賃の調べ方を理解する
  - ・いろいろな交通手段の長所、短所を理解する
  - ・公共交通機関への関心を高める
  - ・公共交通機関の乗り方、降り方を理解する
  - ・公共マナーを理解する

※低学年、中学年で交通環境学習を行っていないため、本時のみ期待される効果

- ＋αの学習内容（事務局提案事項）
  - ・これからのまちづくりと公共交通の関係を知る
  - ・公共交通利用促進のためのポスターを制作する
  - ・小学校（または地域）バスマップを制作する

４　今年度のスケジュール

平成22年7月

第1回　仙台市小学生交通環境学習推進委員会

↓

平成22年8月～10月

第1～3回　作業部会

↓

平成22年11月

第2回　仙台市小学生交通環境学習推進委員会

↓

平成22年12月～平成23年2月

授業計画に基づく授業の実施

↓

平成23年2月

第4回　作業部会

・次年度以降の年間を通した授業計画の検討

・各学年（低・中・高）毎の学習目的・指導内容（学習項目）・学習教材の検討

↓

平成23年2月下旬

第3回　仙台市小学生交通環境学習推進委員会

参考資料　1

作業部会　　実施概要

【第１回　作業部会】

日時：平成２２年８月１０日（火）　１０：００～１２：００

場所：仙台市役所

内容：　・作業部会での検討内容の確認

・学習目的に応じた学習要素の整理（マトリクスの整理）

出席委員：

菊池輝委員、青木まゆみ委員(鶴巻小学校)、下山俊子委員(鶴巻小学校)

出席オブザーバー　：

伊勢みゆき委員、米澤孝雄委員、髙橋亨治委員

【第２回作業部会】

日時：平成２２年９月１３日（火）　１５：３０～１７：３０

場所：仙台市立広瀬小学校

内容：　・学習目的および成果目標の確認

・授業計画への組み込み検討

出席委員：

菊池輝委員、青木まゆみ委員(鶴巻小学校)、藤村博之委員(鶴巻小学校)、

下山俊子委員(鶴巻小学校) 、石田将委員（広瀬小学校）

出席オブザーバー　：

米澤孝雄委員、熊谷和彦校長（広瀬小学校)、及川教務主任　（広瀬小学校）

【第３回作業部会】

日時：平成２２年１０月８日（金）　１５：３０～１７：３０

場所：仙台市立広瀬小学校

内容：　・今年度実施可能な授業計画の検討

・各学年（低・中・高）毎の学習目的・指導内容（学習項目）

・学習教材の検討

出席委員：

青木まゆみ委員(鶴巻小学校)、藤村博之委員(鶴巻小学校)、

下山俊子委員(鶴巻小学校) 、　石田将委員（広瀬小学校)、

高橋和也委員　（広瀬小学校)、佐藤裕子委員　（広瀬小学校）

出席オブザーバー　：

米澤孝雄委員、熊谷和彦校長（広瀬小学校）

第２回　仙台市小学生交通環境学習推進委員会議事録

日　　時　　平成２２年１１月１０日（水）　１３：００～１５：００

会　　場　　ハーネル仙台　５Ｆ　いちょう

出席委員　　菊池輝委員、吉村敏之委員、足立千佳子委員、門田陽子委員、伊勢みゆき委員、米澤孝雄委員、鈴木義男委員［７名］【オブザーバー】熊谷和彦　広瀬小学校校長、仙台市教育局学校教育部教育指導課　八巻賢一　主幹

欠席委員　　高橋享委員、堀越清治委員　［２名］

事 務 局　　交通エコロジー・モビリティー財団　岡本交通環境企画課係長、岩﨑総合交通政策部部長、若生公共交通推進課課長、高橋環境都市推進課課長、菅原公共交通推進課主査、五十嵐公共交通推進課主査、田中公共交通推進課技師

議　　事　　１　開会

２　あいさつ

３　報告事項

４　議事

（１）　６年間を通した交通環境学習の目標について

（２）　交通環境学習の実施方針について

（３）　今年度実施する授業計画（案）について

（４）　その他

５　閉会

配付資料　　１　仙台市小学生交通環境学習について

参考資料　　１　作業部会　実施概要

１　開会

○事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、「第２回　仙台市小学生交通環境学習推進員会」を開会いたします。会議をはじめるにあたりまして、お手元にお配りした資料の確認でございます。まず本日の議事次第でございます。本日出席の委員名簿、事務局出席者名簿、席次表が一緒に添付されております。次に資料１として「仙台市小学生交通環境学習について」というカラーの資料になります。また、参考資料１として「作業部会　実施概要」となっております。以上の資料についてご確認頂けますでしょうか。それでは、次第の２番目、あいさつに移らせて頂きます。あいさつは本委員会の委員長である東北工業大学工学部建設システム工学科准教授の菊池輝様にお願い致します。

２　あいさつ

○菊池委員長

皆さん、こんにちは。お忙しいところをおいで頂きましてありがとうございます。前回の委員会から３ヶ月強は経っておりますが、前回の委員会でお認め頂いたように、作業部会を設置致しまして、そこで具体的な作業内容・計画を検討して参りました。本日はこの作業部会の成果をご報告させて頂くことになっておりますので、委員の皆様方には、いろいろな視点からご意見賜りたく存じます。それでは、まずはじめにですね、委員会の設置要項第５条第４項に基づきまして、本日、作業部会のメンバーについては、また後ほどご報告致しますけれども。この作業部会でいろいろご協力して頂いている、広瀬小学校の方から熊谷校長先生をオブザーバーとしてご出席頂くことになっております。あの、少し時間遅れて来られるということです。また、堀越委員も本日ご欠席ということで、同じ仙台市教育局学校教育部教育指導課の八巻主幹にオブザーバーとしてご参画頂くことになっております。一回目の委員会でご欠席だった足立委員にも、本日ご出席頂いておりますので、簡単に一言ご挨拶をお願い致します。

○足立委員

はじめまして。こんにちは。まちづくり政策フォーラムの理事の足立でございます。去年とその前と２年間、私どもと仙台市さんの方で小学校低学年の交通についてやらせて頂きました。よろしくお願いします。

○菊池委員長

それではいったん事務局の方へマイクをお返ししたいと思います。

○事務局

ありがとうございました。それでは、次に次第３の報告事項でございますが、作業部会の実施概要の報告ついて、菊池委員長よりお願いします。また、本委員会の議事進行は、委員長による進行となっておりますので、報告に引き続き、議事の進行をお願い致

したいと思います。よろしくお願いします。

３　報告事項

○菊池委員長

はい、了解致しました。それではですね、次第の３番報告事項に入ります。ここでは、作業部会の実施概要の報告をさせて頂きます。参考資料と致しまして A4 一枚で「作業部会実施概要」というものがございます。この、予定通り３回の作業部会を経て本日に至っているわけですが、この作業部会の成果については、後ほど議事の方で詳しく報告・説明頂くことになっておりますので、私の方からは３回予定通りに実施しましたという報告に留めておきたいと思います。またですね、１回目の委員会で委員長と副委員長預かりとさせて頂いた作業部会のメンバーの選出なんですけれども、こちらにつきましては、私と吉村副委員長と、それから米澤校長先生のご協力を得てですね、鶴巻小学校から３名の教諭、それから広瀬小学校からも３名の教諭にメンバーとしてご参画頂くことになりました。その６名の作業部会のメンバーの方々でいろいろご検討頂きました。もう一点、ご報告ございまして、１回目の委員会の中で、３年間の中でこのように進めたいと思いますということをご説明したのですけれども、この中で、仙台市として実績をもっている低学年と高学年を、まず今年度実施して、中学年に関してはしっかり検討した後、次年度開始しますということでご説明させて頂いたのですけれども、作業部会の中でいろいろ検討していく中で、そのメンバーの方々も非常に積極的に参画して頂いてですね、中学年もやはり今年度からやった方が、この３年間のつながりというものもしっかり見えてくるのではないか、という提案を頂きまして、大変お忙しいところを恐縮ではあったのですけれども、中学年についても今年度実施する運びとなったことをご報告致します。以上が、作業部会の簡単な報告とさせて頂きたいのですが、何かご質問などございましたら。よろしいでしょうか。それでは、議事に入る前に、本日オブザーバーとしてご出席頂いております広瀬小学校の熊谷校長先生が、今、ご到着しました。よろしくお願いします。

○(オブザーバー)熊谷校長

遅れて申し訳ありません。よろしくお願いします。

４　議事（１）

４－１目標について

○菊池委員長

　では、次第４番、議事に入りたいと思います。議事に入る前に、まず会議の成立に関する件で、お話させて頂きます。本日、向山小学校校長の高橋委員、それから仙台市教育局の堀越委員がご欠席となっております。門田委員はまだ。

○事務局

　30 分くらい遅れるそうです。

○菊池委員長

　そうですか、了解致しました。門田委員を含めまして、今７名の出席となっておりますので、定足数に達しているということで、会議は成立するということを報告させて頂きます。また、本日の委員会の議事録の署名人を委員長から指名させて頂きます。前回は門田委員にお願いしましたので、名簿順で、今回は伊勢委員にお願いしたいと思います。

○伊勢委員

　了解します。

○菊池委員長

　よろしくお願い致します。それでは、会議の公開・非公開について確認させて頂きます。本委員会、原則として公開するという立場で進めさせて頂きます。ただですね、特定の個人を識別しうる情報、こういったものを扱う場合などにつきまして、必要に応じて非公開とするという方針にさせて頂きたいのですが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。傍聴の方、おられないですね。それでは、早速議事の方に入っていきたいと思います。本日はですね、作業部会の成果と言いますか、その説明を、３つに分けて説明することになっております。まず１点目、「６年間を通した交通環境学習の目標について」ということで、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局(五十嵐主査)

　それでは説明させて頂きます。お手元の資料と同じものを、前方のスクリーンに映しておりますので、そちらもご覧いただければと思います。

　まず、前回もご提示させて頂いた本委員会の３年間の流れでございます。先程、菊池委員長からもご報告が有りましたように、作業部会を実施していく中で、当初は翌年度以降に実施する事としておりました中学年につきましても、本年度に授業などを実施できる見込みとなりました。そのため、前回ご提示したものと若干の変更がございます。

まず今年度、平成 22 年度につきましては、低学年から高学年まで、学習内容、学習教材、指導マニュアル（案）の検討を行いながら実際に授業を実施し、次年度以降の課題、問題等の抽出・整理を行ってまいります。次年度以降、今年度の実施成果をもとに、学習内容、教材・マニュアルの精査を行い、より良いものとして確定していき、平成 24 年度には全市的な取組が可能なように、普及と継続的な取り組みに向けての検討を行って参ります。

次に「１．交通環境学習の目標」ですが、６年間を通した交通環境学習の目標としましては、「公共交通を交通手段の一つとして考えられる」ようにしていきたいと考えています。日常の移動手段の中で自家用車だけではなく、バスや地下鉄など公共交通を移動手段の一つとして捉え、選択肢の一つとして明確に位置付けて貰えるようにする事を目標としています。

次に５ページの各学年の学習目標と学習内容ですが、６年間の目標に向けて低学年では「公共交通を身近に感じる」と致しまして「公共交通に親しみながら、公共交通に乗れるようになる」ことを学習目標にしております。そのため、色々な交通手段を知ったり、バスの乗り方や降り方についてや、バスの仕組みについての学習を行ってまいります。また、公共交通マナーについての学習も行っていきます。

中学年では「公共交通でおでかけができる」と致しまして「公共交通を使い、目的の場所まで行けるようになる」ことを学習目標としています。そのため、目的地への行き方や時刻運賃の調べ方などを理解する学習を行います。また、公共交通体系をもとに公共交通とまちづくりの関係性を理解して貰える学習を行っていきます。

高学年では更に進めて「公共交通を賢く使える」として「様々なケースに合わせ、交通手段を賢く選択できるようになる」ことを学習目標として「環境面など色々な交通手段のそれぞれの長所・短所を理解し、自分の中で取捨選択ができるようにする事や、それぞれの交通手段の役割を理解する事を学習内容としております。議題１の「（１）６年間を通した交通環境学習の目標について」の説明は以上です。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。ただいまご説明がありましたように、４ページ目に６年間を通した交通環境の学習目標としましては、まちなか振興の話なんですけれども、公共交通というものを、交通機関の一つとして考えられるようになって欲しいということでございます。５ページ目には低学年、中学年、高学年、それぞれにおいてですね、この全体の学習目標を達成するためのステップというものを考えながら、この学習目的というものをそれぞれの学年に応じた次第でございます。この目標についてですね、あるいは５ページ目の下の段にあります学習内容につきまして、委員の皆さんから何かご意見を頂きたいと思うのですが。本日の議事の進め方ですが、勝手ながら、少しお約束をさせて頂きたいのですが、質問・ご意見は１回につき１つで留めて頂きたいと。もし複数ある場合はですね、その質疑応答が終わってから、また改めてご意見を頂くという形でやらせて頂きたいと思いますので、ご協力をお願い致します。それでは、この全体の学習目標並びにこの各学年の学習目標と学習内容につきまして、何かご意見ございます

でしょうか。非常にシンプルな学習目標とさせて頂いております。この学習目標、実は環境という単語が配置できないんですね。これは、次に説明しますけれども、実施方針とも関連致しますけれどもが、環境という単語をここに入れてしまうことによってですね、「やはり環境が絡まないとこの学習プログラムに参画できない」というイメージをもたれますと、やはり広範に広まらないのではないかと思いまして、この委員会としての全体の学習目標としては、このような形にさせて頂いたということでございます。ただ、考えられるという言葉に対しては、いろいろな意味を込めておりまして、具体的には５ページ目の「賢く使える」、賢いということで環境のことも考えて使いましょう、ということの表現にさせて頂いておりますけれども。この学習目的「身近に感じる」、「おでかけできる」、「賢く使える」としておりますが、非常にシンプルでソフトな表現をさせて頂いておりますが、これは広くこのプログラムに参画して頂きたいということで、実際は、小学校の学習内容ですね、これに少しでも合うようにこちらの方が歩み寄るような形での表現にさせて頂いたということになっております。ですから、２番の方にも関連するんですけれども、こういう学習目的を設定することによって、非常に気軽に手を挙げて頂ける学校が増えるのではないかと期待しておるんですけれども。特にですね、この学習内容につきましては、学習目的というのはこのようにソフトな形で設定致しましたけれども、学習内容につきましては、やはり具体性をもたせなければいけないということで、ここにいくつか具体的な項目を挙げさせて頂いておりますけれども、特にこの点につきまして、ご提案とかご意見が頂けたらと思いますけれども。話を振らせて頂きますけれども、足立委員は、やはりいろいろ取り組まれた実績がございますので、この学習内容について、こういうものも取り込めるのではないかということがありましたら、是非、意見頂きたいと思います。

○足立委員

５ページのことについては特にありません。

○菊池委員長

そうですか。５ページまでのところは、特によろしいでしょうか。

○(オブザーバー)熊谷校長

私から一点、オブザーバーですがいいでしょうか。

○菊池委員長

結構でございます。

○(オブザーバー)熊谷校長

５ページ目が学習目的となっていますが、目的ですとゴール、エンドです。ここは目標ではないのですか。目標となりますと、目的に至るための手段という形になりますので、当然、内容が異なってくるのかなと。ここに学習目的とありますので、目的となる

と、「これはゴールなんだな」というイメージで、当然そこに、次の目標が出てくるのかなということなんですが、そのあたりは。言葉の使い方のことだけですが、いかがかということでの質問でございます。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。事務局の方でこのワーディングに関して何か特別なことがございますか。

○事務局

それは表現の間違いとして訂正させて頂きまして、表題にありますとおり、各学年の学習目標と学習内容ということでございますので、今の表現は間違いとして訂正させて頂きます。

○菊池委員長

はい、では資料の方を訂正させて頂きまして、学習目的ではなくて、学習目標ということでお願い致します。他に何かご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○伊勢委員

４ページの方が全体の学習目標ということになっているんですけれども、その具体となっているのがその各学年での低・中・高の学習目標となっていると思うんですね。その低・中・高の学習目標が割と明確なんですが、それを踏まえた上で全体として目指すのが、この全体の学習目標という形なのでしょうか。階層が、私の質問なんですけれども、この全体の目標があって、それを分けると、この低・中・高となるのか、その低・中・高からやることで全体の学習目標となっていくのか、これはどういう組み立てになっているのか、ちょっと教えて頂きたいのですが。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。事務局の方で、この各学年の学習目標と全体目標の関係というのは、どのように、どういうストラクチャーで考えられているのでしょうか。

○事務局

基本的には、まず６年間の目標に向かって各学年で出来ることを組み立てていく、というような考え方ではまとめてはいるんですけれども。今、伊勢委員がおっしゃったように、その前後の部分ですね、どちらかというと、全体の方が簡単な目標になっていて、各学年の学習目標が、より高度な目標となっているという形にも見受けられるところがあるかと思うのですけれども。まず、６年間を通した目標としてですね、あまりレベルの高いものを設定していなくて、最低限の部分、その位のところを身につけて頂きたいというところを目標にしておりまして、あとは各学年の学習内容、あと、今後実施方針の中にも出てくるかと思うのですけれども、新たにこういった交通環境の学習を行うと

いうことではなくて、各授業、各教科の中にうまくとけ込ませていくというような考え方で、各学年の学習目標というものを掲げておりますので、ちょっとその辺がですね、難しく感じられるのかなという気はいたします。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。しかしこういう構造というのは、どういうふうにするのが分かりやすいのですかね。この各学年を時間軸として、それぞれの目標があるけれども、その他に全体の目標を設定した場合の関係をですね、何かこう分かりやすい絵を描くとかですね。どんなイメージになるのですかね。

○吉村副委員長

私のイメージでは、全体のイメージがあって、それを低・中・高に分割させて具体化したって、そんなイメージで、何となく分かったつもりになっていたのですが。今の伊勢委員の意見では。全体の括りとしては、ボーっとして見えるけれども、やはり大きい、何でも入り込める器みたいなものがあった方が良いのではないか、というふうには思います。それが菊池委員長からありましたように、全体のこういう目標があるから、次の実施方針とつながっていくと思います。大きな見通しというのが全体の目標であって、その見通しに向けて具体的に何をするかということで、低・中・高で具体的な内容につながるというふうに考えていった方が、実践するにあたっては動きやすいのではないか、そんな感じがします。この各学年、個別で設定はしているんですけれども、中学年の目標を目指すためには、低学年で身近に感じてもらっていた方が、この目標がもっと明確に高められると思いますし。最後にこの高学年まできた時に、ピラミッドのような形をもしイメージするとすれば、最後に上に乗せるような形で全体目標があるのかな、というイメージもあるんですけどね。この関係がちょっと漠然とはしていたかもしれません、この資料では。もっと分かりやすい構造で、また次回の資料の作成をお願いします。

○(オブザーバー)八巻主幹

いいですか、オブザーバーですが。私は、割と分かりやすいかなと実は思いました。と申しますのは、将来市民として、あるいは社会人として求められる資質、それをいわゆるその目標と掲げて、そのためにはどのような対応を定めるのが必要か、というのが学習指導要領のスタイルなんですね。この全体の学習目標を、「将来市民として社会人として公共交通を手段の一つとして考えられる、そのような市民を将来育てるために、今、小学校の段階で、低学年では」。ですから、つなげてみると分かりやすいと思います。公共交通を交通手段の一つとして考えられるために、「低学年ではまず身近に感じさせましょう、」で、同じように、「中学年ではまずおでかけができるようにしましょう」。そのようなつながりで捉えると分かりやすいかと思います。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。それについてはまた整理したいと思います。

（２）　４－２実施方針について

○菊池委員長

それでは、次の議事に移りたいと思います。交通環境学習の実施方針ついて、事務局の方からご説明をお願いします。

○事務局(五十嵐主査)

それでは説明させて頂きます。

資料 1 の６ページからになります。交通環境学習の実施方針ですが、新たに交通環境学習を作り上げていくのでは無く、既存の各教科の中で、各校の授業計画の中に「薄く、軽く、効果的に」組み込んでいく事を実施方針としています。

これは、様々な教科の授業計画の中に交通環境学習の要素を溶け込ませていく事を考えております。このことにより授業を実施する小学校の先生方の負担を低減し、継続的に広範に取り組みやすくする事を目指しています。また、教材を工夫する事で実効性の高いプログラムとして取り組んでいきたいと考えております。

この交通環境学習の実施方針に基づく実施例（案）としては、例えば低学年での「国語」の教科の中の読み物「じどう車くらべ」の中で色々な働くクルマの紹介をしておりますが、その中でバスなどの「公共交通」について掘り下げて紹介していくという事や、「算数」の「時計の読み方」の学習の中で、時刻表の見方を教えていくなどが考えられます。また、中学年については「社会」の「仙台市のようす」の中で、「公共交通機関とまちづくりの関係性を知る」でありますとか、高学年の「総合的な学習の時間」の「市内を探検しよう」の中で、実際に自分たちで乗車計画をたてながら実践していくような事を考えています。さらに各学年において、郊外学習の機会を利用して乗車体験を行うことなども考えております。「（２）交通環境学習の実施方針について」の説明は以上の様になっております。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。ただいま、資料６番、７番、８番についてご説明頂きました。前回の委員会ではまだキッチリ明確にはなっていなかったのですけれども、案としてはそういうイメージ的な学習プログラムを策定するという案もあったんですけれども、実際問題として大変なんですね。小学校の授業というのは「何とか何とか教育」というのがたくさん、十何個あるそうで、そこに交通環境学習というものを括ってしまうと、非常に重たいものになってしまって、学校の現場の教諭の方々に、大きな負担をかける可能性が出てきます。これは一回目の時に、堀越委員からもそういうご指摘がありまして、作業部会の中でも、その点は非常に重視して進めて参りまして、このような、今、説明頂いたような実施方針というものを策定致しました。この６ページ、６番から８番につきまして、ご意見を頂きたく思います。どなたからでも結構でございます。

○足立委員

一つずつということですので。６ページで、各校の授業計画の中に「薄く、軽く、効

果的に」と赤文字であり、これは画期的な表現だなとは思いますが、ただ、意図が分かれば『そうよね』と思えますが。どうでしょうか、もう少し別な表現がないかなと、私も今見ながら…ご苦労されながらその言葉に辿り着いたのは、重々感じております。

○菊池委員長

はい、それではご苦労頂いた事務局の方から、この表現についてですね。非常に、関係者としてはおそらくこういうことだろうなと、推察できるのですが、ぱっと他の人が見た時にですね。最初これは、「軽く、薄く」となっていて、平仮名を抜くと「軽薄」になるとダメ出しがあったんですけれども。そうですね、何かこの場でですね、もっと素敵な表現がご提案頂けると良いのですが。「薄く」と「軽く」って似てるような言葉なのかもしれませんね。それが２つ重なるとすごく強調されて、「どうなのかな」という印象も出てくるのかもしれません。私は今、ご指摘を受けて考えてみましたけれど。

○足立委員

「気軽に」とか「取り組みやすく」とか。似たような言葉ですけれども。

○菊池委員長

「気軽に」とか、良いと思います。印象が違いますよね。私も改めて今、「薄く」というのはちょっと…。

○足立委員

言葉としては伝わらないと思います。

○米澤委員

我々学校側の立場から申しますと、「気軽に」でも「効果的に」でもあまり意味がないと、正直、実は思います。つまり、「気軽に」というのは、学校の我々の立場からすると、何をどうするのかということが明確じゃないという。各学校の授業計画の中に組み込んでいくためには、年間指導計画、カリキュラムにきちんと位置づけられているということが第一条件で、それがなければ、いかに「気軽に」とか、「薄く、軽く」であろうと、単なる言葉の遊び、と言ったら失礼なのですが、その域の問題だと思います。私が一番最初に、小学校交通環境学習関連単元表を提案して、各学年で交通環境学習を目指すという、学習の要素を洗い出して、どの学年のどの教科に位置づいているのか、それをどのように、例えば各教科ですね、ここをご覧になって頂くと、８番目ですか、低学年の 1 年生は「じどう車くらべ」であるとか、単元の資料としてここで扱っていこうと。それから、さっき目標のところで言わなかったのですが、私たちは、知識理解的な側面と、体験を通してという２つが必要であろうと考えているのですね。ですから、例えば交通手段の一つとして考え、そして利用できるという。そうすると、考える方は教科の学習、国語だとか社会、算数、その辺でやって、そこで身に付けたものを実際に体験を通して生活や総合的な学習で使えるようにしていく。その各教科と、生活・総合

的な学習との関連というものがカリキュラムに位置づいていれば、各学校でそれを参考にして学習、授業計画の中に取り組んでいくのではないかと、こんなふうに考えております。

○菊池委員長

ありがとうございます。一つ、学習目標についてのご意見を頂いたところですが、確かにご指摘のとおり、考えて、そして利用できるというところまで、言葉として表現した方が、現場の先生にとってはイメージが湧きやすいのかもしれないですね。ただ、この学習目標はできるだけ短い文章にして、見ないでも一言で誰でも言えるような、ということで考えたのです。考え、そして利用できるぐらいを付け加えたとしても、意味というのは正にそのまま表現して頂いているので、問題はないかとは思うのですけれども。

○米澤委員

目標として高学年は「賢く使える、利用する）」ですから、その辺の各学年の学習目標との内容との関連でも、それから環境事情の問題からも、体験を通して学ぶ生活科、総合的な学習ということが、大事なステージになってきますので、それを意識して目標設定されたらいかがかな、という考えで申しました。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。それでは学習目標の方ですね、「公共交通を交通手段の一つとして考え、そして利用できる」というふうに変更させて頂きたいのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、「薄く、軽く、効果的に」の方へ戻りますけれども、今、米澤委員から「気軽に、効果的に」という言葉であっても、やはり現場の教師にとっては具体的なイメージが湧かないので、あまり合わないというご指摘を受けましたけれども。事務局の方ですね、この実施方針というものと、それから一つ目の議事での学習目標との関係というのは、どのように位置づけておられますかね。私の方での勝手な解釈なんですけれども。

○米澤委員

発言してもよろしいでしょうか。さっき、オブザーバーの八巻先生がおっしゃったこととも関連しますが、つまり、我々学校としたら各校の授業計画の中に組み込んでいくために、このようなものが必要だと、こうなれば組み込めます。ですので、私は組み込んでいくために、年間指導計画に、学習の中にキチッと位置づけるんだと、こういう提案をして頂ければ。ですから７ページも全く同じなんです。各校の授業計画の中に、効果的に組み込んでいくために、下の６行の内容があるというふうに考えれば、極めて分かりやすい。７ページの下６行というのは、組み込んでいくための方策について明示されていれば分かりやすいと思います。

○菊池委員長

私の解釈というか、イメージなんですけれども、見出しがあまりハッキリしていないので、交通環境学習の実施方針、この実施するのは現場の先生なので、この先生方の方針というふうに、捉えてしまうと…。私の解釈としましては、これは委員会側と言いますか、行政側の立場での方針として、こういうメッセージが一つあっても良いのかなと。要は、プロモーションと言いますか、各学校の校長先生にお願いする時に、「実はこういうふうに無理のないようなプログラムなんです」とご説明するためのこういうメッセージとして位置づけると、このメッセージの意味というのがハッキリしてくるかなと、いうふうに思っているんですけれども。それでも、やはり具体性をもっていないといけないというご指摘がありましたので、やはりこのメッセージにキチンと具体性をもったものがあると良い。このメッセージだけで切り取って、一人歩きしないように、ということは非常に重要なご指摘だと思います。この６ページと７ページをめくりながら見ていると、「薄く、軽く」というのはちょっと意味が似ていますね、という話はしていました。「軽く、気軽に」という表現が提案されましたので。この７ページを見ていると、「継続的かつ広範に」ということがあるので、「薄く」ではなく「広く」とかの方が、まだ伝わりやすいかな。言いたいことは「負担を薄く」なんですけれども、直接的に言って。それをまた、もうちょっと別な形で。ただ、先ほど米澤先生がおっしゃったように、実際にはキチンと指導計画が学校教育には要りますよね。それが負担になっては…負担が出来る限り少なくなるんだということを、もう少し分かりやすく。この言葉の表現ですね、再考する必要があるかとは思いますが、意味するものとしては、負担を可能な限り少なくして、継続的かつ広範に取り組みやすくしましょうということと、教材というのは、この委員会が中心となってですね、いろいろ提案して工夫して作成していくことで、実効性の高いものにしていこうという、こういう趣旨については、ご承認頂けるかと思いますので、あとは事務局の方でですね、少し終わりの方検討するということでよろしいでしょうか。このメッセージ自体、私が発言したことなんですけれども、もうちょっと考えます。

○伊勢委員

このワードで先生方が具体的に見えるかどうか私も分からないのですが、やはり、実際にこの交通環境学習を取り入れる時に、「負担を軽く」とは言ってもプラスなので、負担を軽くではないような気がします。その時に、各教科と連動させてとか、違う表現もいくつかあるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○米澤委員

学校の先生の負担を少なくするために、どういう方策があるかということ。ですから、その中で負担を少なくするために、３ページのご提案があるわけなのだと、私は考えたんです。それで、一つはカリキュラムを分かりやすく呈示する。それからもう一つは、そのカリキュラムに関連します学習教材、指導マニュアル、そして教材。例えば、いろんなノートだとか、そういうものを呈示するということが、学習側の負担を少なくするということの手だてになる。だから、目指すものはもちろん正しいことだから、表記上

の工夫をなされば学校側には伝わるのではないかな、と思います。

○菊池委員長

ありがとうございます。いくつかあるとおっしゃいましたけれども。はい。

○足立委員

よろしいですか。８ページ目、交通環境学習の実施例（案）というところなんですが、いろんな教科と連動させていくという、非常に分かりやすくて良いなと思いました。ですが、去年と一昨年にやってみて、低学年の人達が何につまずいたかと言うと、算数の授業ですね、料金なんですね、まずは。たぶん、低学年のお子さんで、時刻表を見るというよりは、値段を知るということにね。貸し切りバスってことは、路線バスじゃないバスなんですか。

○事務局

今年の実施計画では、貸し切りバスです。

○足立委員

いずれは路線バスでお出かけするようなことになる時に、まず何が分からないかというと、その料金。お子さんは半額で、しかも 10 円切り上げでしたっけ、10 円未満をどう切り上げるのかっていう。２年生まではまだわり算の概念がなくて、10 円を切り上げるなんていうと分からないので、逆にそれが、仙台市のバスの料金体系を分かりやすく変えたら良いんじゃないかっていうこともありますが。そこが分からなかったという情報を提示いたします。それから、生活のところを乗車体系で、子どもの時は値段が違うんだよと、いうふうな見方も先生方が逆に、どうやったら子ども達が理解できるかっていうことを、少し教えを拝借したいというか、ご提示頂いて、分かりやすく説明できたら、それだけでも結構違うとは思いました。

○鈴木委員

教育の面ではないので、見当違いかもしれませんが、運輸局としても子どもさん向けのことをやっているので、公共交通の促進ということで。つい先日、福島県のいわき市の方でやって参りました。２年生を対象に、路線バスに乗って頂いて、整理券の取り方ですとか、料金の払い方ですとか。運賃が半額になって５円切り上げて 10 円にまとめられるんですよというのをやったんですが、やっぱり分からない。２年生位ですと、現実的に分からないと思います。なぜ、150 円が 80 円になるのかということが分からない。80 円ですよというのが表示されるので、80 円ですかというだけであって、自分の中で、何を見たら 80 円かということがないんですね。その辺が、現実にバスに乗る前に、授業の中でわり算を、わり算の授業がまだないということもあるのかもしれませんが、わり算の考え方と、切り上げ・切り捨てという算数的な考え方とか、どの学年かによって実地体験の仕方も変わってくるのではないかという気がしました、実際にやってみて。あ

と、バスによっては定期券の考え方とか。子どもさんが、実際に定期券を持って乗っている子どもさんがいるんです。仙台市さんに実際にどれくらいそういう子どもさんがいるのか分かりませんけれども、たまたま私どもが乗車体験をやった学校では３割位が定期券通学生でした。低学年なので、けっこう多いんですよね、歩かないでバスに乗るというのは。そうなってくると、運賃そのものよりも、定期券の使い方とか、あるいは、今はやりのバスカード、プリペイドカードの使い方ですとか、そっちの方が、実際の子どもさんの使い方としては多いので、そういうのも組み合わせて教えた方が、私なりには良いのではないかと、ちょっと思いながら反省しながら帰ってきました。ちょっと体験的なことなのですが。

○米澤委員

学校の立場として、私が考えるには、前に堀越委員がおっしゃったように、何とか教育というのが何十種類もあるということですが、私はこれは、例えば交通環境教育とは捉えていない。と言うのは、さっきから申し上げていますが、小学校はカリキュラムに基づいて授業を行っております。その各教科、各領域の活動とこれはどのように関連しているのか。その学習内容を、どの学年でどのような配列で指導したら、子ども達にとって適切で効果的なのか、そのようなことを考えたら、先ほどからカリキュラムというお話をしていますが、これは、例えばある学年の一回限りのイベント的な学習ではないと捉えています。つまり、６年間を通したロングスパンの教育でなければ、最終的な目標ですね、公共交通を交通手段の一つとして考え、しかも自発的にそれが利用できる。利用するプロセスの中で、例えば環境問題などにも気を付けて考えていく、そういう学習が成り立たないのではないか。だから、ロングスパンで考える必要がある。まだ話がいってないので申し上げませんでしたけれども、鶴巻小学校の場合で言えば、９ページが１年生で、13 ページが３年生、17 ページが５年生。これはそれぞれ、その学年で学習していく内容を反映した内容です。ですから、半額なんていうのも一応１年生でも出てきますが、わり算を習わない１年生が半額、しかも四捨五入なんていうのは理解しがたいことですね。そうすると、例えば１年生であれば、バスというのは身近なものなんだ、自分達に親しいものなんだ、そのことを感覚的に理解できれば良いのではないか。そのことで、次に３年生で、もっと知ろう、もっと出かける時に、どういうことに気を付けてバスを利用すれば良いのかということに気が付いて、そして５年生になったらもっともっと知りたいとなる、そういう流れをくんでいます。ですから、その地域地域によっても様々だと思いますけれども、だいたい仙台市の小学生として、このような学習内容が典型的な学習内容として相応しかろうという、我々として配列した結果がこのような形なのですということです。

○菊池委員長

ありがとうございます。実際の問題としまして、わり算とか繰り上げというのは、具体的に何年生で習うのでしょうか。４年生でしたっけ、四捨五入。

○吉村副委員長

３～４年生。本当に使うのは高学年になってから使う。一応、簡単には４年生でしたっけ、わり算ていうのはね。

○(オブザーバー)熊谷校長

私はこれはうまく作ったなと思っておりますが。低学年では親しむ、中学年が活用する、高学年で更に活用し考えるといった中で、これは大変良いと思いますが、正にわり算の話をすれば、子どもからすれば理科で考えると分かりやすい。つまり、昆虫の体の仕組み、頭部・胸部・腹部に分かれていることを、最初から低学年に教えてもしょうがない話なんですね、１年生には。やはり、虫と遊んでみて、おもしろいなぁとか、眼が動いたなとか、うんと親しんで親しんで親しんで、いろんな虫を見て、つかんで触って、そして、実はあなた達が遊んだのは、この部分は頭部なんだよと、胸部の部分から足が出ているんだよと、そうすると理解が一気に出てくると。そういった十分な体験があって初めて理解が進むと。当然、それが発達の段階、それを見据えた、教育というのはそういうことですので。それが最初から、頭部・胸部・腹部はこうなんだと、そこから入っていかれると、いかがなものかと、いったことになるのかなと、いったことが先ほどの、伊勢委員ですか、足立委員のお話だったのかと、私は捉えたということです。私も作りをうまく考える必要があると思います。

○菊池委員長

ありがとうございます。一人でお出かけしたり、利用するっていうのには、料金が分かるというのは絶対必要なことですので、これをどこまでどういうふうに、それも効果的に教えるというのは、ちょっと検討する必要がありますよね。低学年では難しいので料金のことは教えないと。

○吉村副委員長

バスで 80 円をちゃんと出すのが大変なんですよ。両替するのだって大変なんですよ。

○鈴木委員

親御さんと同伴すると、安くなるとかタダになるとかありますよね。前に乗ったときはタダだったのに、今日は 80 円となる、これはどうなっているんですかと聞かれる。

○吉村副委員長

そういうことを言い出すときりがないですよ。

○鈴木委員

子ども達は戸惑うだけになってしまう。

○菊池委員長

低学年は親しむってことで何がやれるか、そういうことでね、やっぱり米澤先生・熊谷先生のご提案のように、そこでやっぱりキチンとプログラム組んで設定しないと。ただ、お金は払う必要があって、タダじゃないんだよっていうことをなんとかね。そういう乗り物なんだと、家の車とは違って、乗ったら何十円とか、百円くらい払うということだけ分かってもらうっていう。

○米澤委員

さっき長期的なスパンと申し上げたのは、そういうせいです。長期的なスパンがあれば、例えば料金についてどの学年のどの学習でそれが行われるとなれば、無理に下の学年でそういう学習をする必要はなくなるわけです。例えば、鶴巻小学校で言えば３年生が乗り場で運賃を調べる、そこで自分で買ってみるということがどこまで成り立つか。それから、５年生になりますと、一人で目的地に向かって行ってみようという、学習が進んできますので。ですから長期的なスパンでもってカリキュラムとして提案するというのはそういうような意味です。最終的にこの４ページの学習についての行政側の方針で言えば、最終的には利用できる、そこまで踏み込んでいますので。最終的には６年のスパンのカリキュラムで、行政の側の方針、公共交通を交通機関の一つとして捉えて、なおかつ自分でそれを選択して利用するところまで、６年かけてやるんだと、こういう構想を考えておりますけれども。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。この７ページのことについては、今年度実施する学習内容の方に具体化しておりますけれども、たくさんありますので。この部分を含めて、３番の議事の方で併せてご意見伺えたらと思うのですが。この３に移る前に、どうしても、今、ご意見、お話したいという方がおられましたら。よろしいですか。

○(オブザーバー)熊谷校長

６ページ。低学年の各教科等ですが、低学年には総合的な学習がありません。

○吉村副委員長

そうですね、いろいろ細かいところでミスがありますね。あとで事務局にお渡ししますので。ごめんなさい、私も今気付いた次第です。

○(オブザーバー)熊谷校長

中学年の生活も。

○吉村副委員長

そうですね、３カ所修正しないといけません。熊谷先生のおっしゃる通りです。大変申し訳ございませんでした。

○菊池委員長

事務局には短い時間で資料を作って頂いておりますので、いろいろあるかと思いますが、修正がありましたらおっしゃってください、訂正致します。

○(オブザーバー)八巻主幹

来年度からは高学年の総合的な学習が大きく変わり、外国語活用などが入ってきます。５年生から英語活用が始まります。各教科の中に広く組み込んでいく事は事務局にお任せします。

○菊池委員長

非常に具体的な議論に発展しているんですけれども、議事の２番としましては、７ページにあるように、負担を少なくするということと、教材を工夫して効果的にしましょうということについてのご意見を頂きたいということでよろしいでしょうか。では、具体的な話は３番で出てきますので、３番の議事に移りたいと思います。

（３） ４－３学習指導について

○菊池委員長

それでは、今年度実施する授業計画（案）について、事務局の方にご説明をお願い致します。

○事務局(五十嵐主査)

作業部会を通じて検討してまいりました「３　今年度実施する授業計画（案）について」ですが、鶴巻小学校と広瀬小学校のご協力を得ながら、今年度に実施する授業計画（案）について概要が整理できましたので、ご説明させて頂きます。

鶴巻小学校の一年生ですが、こちらは「国語」の「じどう車くらべ」、「生活」の「バス探検」として 12 月に授業を実施いたします。学習内容としては「①いろいろな自動車の働きとつくり」、「②バスについて知ろう」、「③秋を探しに行こう」という事でバスの実車を使って乗車体験を予定しております。目的地としては「秋を探しに行こう」という事で野草園等をご予定でしたが、バス営業所、地下鉄車両基地等、目的地の変更も検討して頂いております。学習教材としては「バスノート」また、実車を用いた乗車体験、バス内でのバスクイズなどを行い、バスについてより親しみやすくすることを想定しています。

ここでの学習成果としましては「バスへの関心を高めること」「バスの乗り方、降り方を理解する」「バスのマナーを理解する」という事としております。また、具体的な授業実施の中で、先程も説明させて頂いたように「バスでの目的地をバスの営業所や地下鉄車両基地等へ変更頂き、より公共交通への関心を高める」取組ですとか、「じどう車くらべ」の中でバスを含め「公共交通機関」に関する理解を深める取組が可能か、細部調整していきたいと考えております。

続きまして、広瀬小学校の二年生ですが。こちらは「生活」の中の「広瀬やさしさ探検」として 12 月に授業を実施いたします。学習内容としては「①近くの公共施設や公共物を探そう」、「②公共交通機関のバスについて知ろう」、「③広瀬図書館へ行こう」という事で実車による乗車体験を予定しております。学習教材としては「バスノート」また、実車を用いた乗車体験を想定しています。

ここでの学習成果としましては、「バスへの関心を高めること」「バスの乗り方、降り方を理解する」「バスのマナーを理解する」事としております。また、具体的な授業実施の中で、バスを含め「公共交通機関」に関する理解を深める取組、目的地を「広瀬図書館」から「メディアテーク」への変更や、乗車中のバスクイズなどによってより理解を深めて貰う事など細部調整していきたいと考えております。

次に鶴巻小学校の三年生ですが。こちらは「社会」の中の「火事がおきたら」など公共施設の働きを学習する単元の中で、実際のおでかけ学習を用いて、乗車体験を実施していきたいと考えています。学習内容としては低学年で乗車学習を行っていない事もあり「①バスについて知ろう」、という事から取り組んでいきます。そして「②バスに乗る計画を立てよう」、「③バスに乗ってみよう」という事で実車による乗車体験を予定しております。学習教材としては「バスノート」また、バス時刻表の見方やバス路線図の見方など、乗車計画のたて方について、実車を用いた乗車体験を想定しています。また、車内で「バスを利用することの良さ」を教えるバスクイズや、紙芝居などの実施を想定しております。

ここでの学習成果としましては、まずは「公共交通への関心を高める」「バスの乗り方、降り方を理解する」「バスのマナーを理解する」事としております。また、中学年の学習目的でもある「公共交通でおでかけができる」ようにするために「学校から目的地までの経路を理解する」や「時刻、運賃の調べ方を理解する」ことを成果と考えています。具体的な授業実施の中で、それら公共施設を含む「まちのしくみ」と公共交通の関係についてもプラスαとして学習する事を検討できればと考えております。

次に広瀬小学校の四年生ですが。こちらは「社会」の中の「宮城県のことを調べよう」の中に公共交通に関する学習を組み込んでいきたいと考えています。学習内容としては「①自分の住んでいる場所を確認しよう」、そして「②お出かけ計画を立ててみよう」という事で座学・教室での乗車計画の策定を予定しております。学習教材としては宮城県という事もあり広範な公共交通体系図などを用いて、バス、鉄道を含めた目的地までの乗車計画のたて方についてを想定しています。

ここでの学習成果としましては「目的地までの公共交通機関での経路を理解する」や「宮城県の交通の様子を理解する」。また、公共交通機関への理解を深め「公共交通機関への関心を高める」ことを成果と考えています。具体的な授業実施の中で、公共施設を含む「宮城県のしくみ」と公共交通の関係についてもプラスαとして学習する事を検討できればと考えております。

つづきまして鶴巻小学校の五年生ですが。こちらは「総合的な学習の時間」の中の「仙台市内の公共施設を見学しよう」という事でグループでの公共交通を利用した「お出かけ学習」に取り組む予定です。学習内容としては「①目的地を決めよう」というこ

とで、グループで任意の目的地を設定し、ルートを決め、次に「②ルートに沿って時刻と運賃を調べよう」、そして「③公共施設を見学しよう」という事で路線バスや地下鉄を使った実際の移動を行います。学習教材としてはバス・地下鉄の路線図や時刻表などを用いて乗車計画をたて方についての教材を想定しています。

ここでの学習成果としましては「目的地までの公共交通機関での経路を理解する」や「時刻・運賃の調べ方を理解する」ことを成果と考えています。具体的な授業実施の中で、「いろんな交通手段の長所、短所を知る」こと、その上で「これからのまちづくりと公共交通の関係・役割を知る事」などを学習出来ないかと考えております。また、学習した内容について「ポスター」や「バスマップ」など目に見える形で整理していく事なども考えられると思っています。

次に広瀬小学校の五年生ですが。こちらは「社会」の中の「放送局の働き」の中で公共交通を利用した「お出かけ学習」に取り組んでいきます。学習内容としては「①放送局へ行くまでの交通手段の種類とそれぞれの特徴を知ろう」という事で様々な移動手段（バス、地下鉄、自動車、自転車など）の特徴を比較する学習を行い、実際に経路を選択します。そして「②放送局に行こう」という事で路線バスや鉄道を使った実際の移動を行います。学習教材としてはバス・鉄道の路線図や時刻表などを用いて乗車計画のたて方についての教材や移動手段毎の時間面、環境面、経済面、体力面など特徴比較ができる計算シートなどを想定しています。

ここでの学習成果としましては「目的地までの公共交通機関での経路を理解する」ことや「時刻・運賃の調べ方を理解する」、「いろんな交通手段の長所、短所を理解する」ことを成果と考えています。具体的な授業実施の中で、「これからのまちづくりと公共交通の関係・役割を知る事」、また、学習した内容について「ポスター」や「バスマップ」など目に見える形で整理したり発表したりしていく事なども考えられると思っています。今年度実施する授業計画については以上のようになります。

○菊池委員長

ありがとうございました。非常に多くの内容をご説明頂きました。文字ばかりで非常に大変ですけれども、スライド番号が９番から 20 番ですね、２つの小学校で今年度取り組んで頂ける、３つの学年でということで、合計６つの授業のパターンというのをご説明頂きました。お気づきかとは思うんですけれども、学習内容のところに書かれているのは、例えば、「じどうしゃ調べ」、「バス探検」、「広瀬やさしさ探検隊」とかありますように、これは事務局で作成して、こういうのどうですかというものを提案したのではなくて、既に年間の中で計画されている、授業計画の中で、バスを題材にできるものがあるでしょうか、あるならば少し取り込んで頂きたいということで、入れて頂いている。ですからメインとしましては、小学校がそれぞれ作られている学習計画の授業内容になっている。この資料で奇数番号の方ですね、９、11、13、15、17 というのは、基本的には小学校の現場の先生方に作成頂いているものでございます。偶数番号の方で、事務局の方でこういうものがアウトプットとして期待できるだろう、あるいは今年度、あるいは次年度のモデルとして作るかどうかは、今後の検討課題なんですけれども、プ

ラスアルファするとしたらこういったものがあるのではないかというものが、赤い枠で示されている資料となっています。非常に多く、いろんな具体的な話が出ているのですけれども、これが３回行いました作業部会の最終的な成果といいますか、報告事項となりますので、これにつきましていろいろな視点からご意見を頂きたいと思います。先ほど料金の話が出ましたけれども、今年の話、資料の中で言うと低学年では料金のことは触れてはいないんですね。中学年も入っていない。５年生になると、「運賃・料金を調べよう」というのが入っているということです。

○米澤委員

13 ページに「貸切バス利用」とあります。その上に、バスの運賃を調べようというのが出てきます。なぜ貸切バスかというと、例えば路線バスを利用した場合に、60～70 人ほどの児童が一人ずつ料金箱にお金を入れるというのは、一般のお客さんにご迷惑になるだろう。ですから貸切バス、路線バスの貸切バスを使って、他のお客さんが乗らないで鶴巻小学校だけで路線バスを利用させて頂いて、降りる時には十分時間をかけて、一人一人料金箱に入れて。そういう模擬体験を想定しての、貸切です。路線バスの増発というんですか。

○(オブザーバー)熊谷校長

路線バスの車輌をもってきて貸切で走らせるという意味でね。

○吉村副委員長

料金はちゃんと一人一人支払うんですね。

○米澤委員

今まではそうではなかったのですが、例えばこういう学習で、やはり中学年で一人一人にバスに乗車すると意識させるというねらいがあるのであれば、一人一人小銭を持たせて支払わせることも可能で。そういうような内容なんです。それから、例えば宮城県警察本部に行きますが、それは交通渋滞が発生している、なぜ交通渋滞が発生するのか、その辺から環境問題を考える一つの方法にもなるかと思います。それから「おでかけ調べ」というツールを使わせて頂きますので、その辺のチェックですね。どんなふうに解決したら良いのかっていう、その辺なんかも学習の内容です。一つ事務局にお願いなんですが、各学年に「公共交通機関とまちづくりの関係を知る」というというのがピンクの欄に書いてあります。もし、各学年、中学年・高学年に応じたワークシートなどがあると、考えやすいかなと、そんなふうに感じます。ご検討頂けたらと思います。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。私、見落としていたんですが、小学３年生で運賃を調べるというのがあるんですが、これは先ほどのお話からすると、無理がなく調べさせることは出来るのでしょうか。

○米澤委員

３年生なので、調べる方法を体験させるということ。何で調べるのか、こういうもので調べるのか、それは自分で探すのは無理ですからね。料金表で、例えば鶴巻小学校前から仙台駅まではいくらだねと、そんなことは可能だと思います。そういう３年生の体験があれば、５年生になった時に、自分たちで料金表をネット上から探し出してきて、停留所名を入力したらいくらだなと、それは可能だと思います。学習の積み重ねで考えていたところです。

○菊池委員長

貸切バスを運行する時に、運行、運賃の表示板は操作できるんですか。できるんですか、そうですか。それで、バスの中で運賃を見るということを体験させることはできるんですね。いくつかダミーで料金が出ていて、でも僕の持っている整理券は３番だから、３番を見なくてはいけないんだ。敢えて子ども料金を表示させるとかね、わり算しなくても良いように。そこまでできるんですかっていう。

○足立委員

子ども料金はできます。

○吉村副委員長

普通は大人料金ですよね。普通の路線バスの表示が出ている。

○菊池委員長

料金表に紙を貼っておきましょう。

○米澤委員

見方を教えると言ったのは、そのせいなんです。整理券を取り、降りる時に料金表を見ますね。整理券と料金表の関係を意識させて、払うんだよと、そこまでは指導します。わり算を習っていないとすれば、ここに出ているのは大人料金で、例えば 500 円と出ていれば半分の 250 円を払うんだよというのは、我々が指導して教えれば良いわけです。全部子どもにやらせる必要はないと思います。だから、無理に子ども料金表にする必要はないと思います。現実にこういうもので社会は運用されているんだと、その中で子どもとして、こういうふうに利用するんだよということを、我々指導者は教えれば。

○菊池委員長

時刻表の見方というのも、同じような形になるんでしょうか。インターネットにたくさんあるところから探し出すんじゃなくて、もうあらかじめ、こういうものがあって、13 時なら 13 という所を見て、という。

○(オブザーバー)熊谷校長

中学年の３年生でいえば、鶴巻小学校前のバス停の時刻表の写真を写して、こういうふうに見るんだよと。今何時で、次のに乗りたければ、ここで何分待って、何時までに着きたかったら、ここからそこまでどのくらいかかるんだろうね、というのは次の学習。そうすると、到着時刻を考えて乗車するという学習になっていくんですね。

○菊池委員長

貸切バスも時間に遅れないように到着しないと。その他、どうでしょう。

○伊勢委員

「期待される成果」のところなんですけれども、例えば３年生で「時刻、運賃の調べ方を理解する」、５年生でも同じ成果が、「目的地までの公共交通機関での経路の調べ方を理解する」もあるんですけれども、これは段階を踏むために、初めてだから同じに設定されているのか、今後の段階を想定してなのか、ちょっと教えて頂きたいと思います。

○米澤校長

鶴巻小の３年生で言えば、「学校から目的地までのバスでの経路を理解する」、５年生は「調べ方を理解する」ですから、ここのところの違い、自分で調べる、つまり３年生は、例えば鶴巻小学校前から目的地まではこういう経路なんだという、経路の見方を理解する。その学習の前提として、今度は自分で、経路図でどこへ行くかというのを、今度は自分で調べるという学習。

○伊勢委員

「時刻、運賃の調べ方を理解する」というのは両方行われるわけですか。

○菊池委員長

自分でということですね、５年生はね。３年生は、再三、米澤先生がおっしゃるように、教師が指導する。

○米澤校長

そうです、調べ方を指導します。それができるようになった時点で、自分でやってみるという。

○伊勢委員

３年生は「知る」ということですか。

○米澤校長

「理解する」というのは、我々が指導したことを理解するという意味合いで捉えて頂

ければ。

○(オブザーバー)熊谷校長

広瀬小の 19 ページですか、３年生は一緒です。知るということの。広瀬小の 19 ページの経路は、本校からはバス移動が可能ですし、仙山線移動が可能です。従いまして、期待される成果のところに公共交通機関を「バス」とは書いてなくて、「公共交通機関」と。ひるがえってですね、６ページの高学年、「公共交通を賢く使える」、「ケースに合わせ」、学習目標ですね、「交通手段を賢く選択できるようになる」、つまり、放送局前に何時集合と、学校から出ないで自宅から何時に集合という形をとった時にですね、そうしますと、自分の家からバス停までと、自分の家から仙山線落合駅まで、その近い・遠いがありますし、それから何時発で可能なのか、そこに至るまでの時間ですね、どのくらいかかるのか。運賃はどうか。そういったものを取捨選択しながら、自分で考える学習が可能になるのかなと、そのように考えております。それが 19 ページの「放送局へ行くまで」。放送局の働きがメインの学習なんですけれども、一つの手段としてですね、学べるのではないかと考えております。

○足立委員

「バスのマナーを理解する」という中でですね、実はバスに乗らず嫌いの要因の一つとしては、狭い空間の中のいたたまれなさというのがあるんですね。料金などを払っている時にまごまごすると恥ずかしいから乗りたくないとか、例えば何か間違ってしまうと恥ずかしいとかがあるので。去年、一昨年やった時は、お子さん達に「思いやりだよ」、「ゆっくり、譲り合おうね」ということを再三話したんですね。マナーという中にこういう、車内で譲り合えるというか、おじいちゃん・おばあちゃんとか、路線によっては車いすで乗る方がいる場合もありますから。バスは乗り降りにちょっと時間がかかるけれども、その中で人と人とが触れ合って、皆で力を合わせて目的地に行くんだよ、というような、そういうような教育もお子さん達にして頂けると、お子さんからお父さん・お母さんへ話がいくと思いますので、そういうところも入れて頂けると良いかなと思います。

○菊池委員長

まず、一つはバスのマナーの話なんですけれども、これは、今年はどのような形でマナーを考えさせる、教える予定でしたでしょうか。

○事務局

バスノートを改良したものでやっていくことになっています。吉村先生のご提案を取り入れまして。

○菊池委員長

米澤先生は、車いすでしたっけ。

○米澤委員
　はい。

○吉村副委員長
　車いすの方がちゃんと利用している場面を入れてくださいということで、貴重なご提案なんです。

○米澤委員
　今回ですね、各学年学習しますが、その中に学習プログラムの検証というのですか、この辺も入れたいと考えております。こういう内容が欲しい、この辺の表現はもっと低学年の子どもに分かりやすくとか、具体的に検証したいと思います。

○菊池委員長
　確かにご指摘の通り、大人でもやはりありますからね。バスの中で「早く降りろ」とか、そういう時に限ってカードが入らなかったりとか。

○吉村副委員長
　両替したつもりでも小銭がなかったりとか。

○菊池委員長
　あと、止まるのにも運転手さんは、「きちんと止まってから席を立ってください」と言うんですけれども、お年寄りの方でもやはり、もうすぐ着くか、止まるか止まらないかのうちに立たれて歩かれて、非常に「危ないな、ゆっくりしても良いのにな」と思うことが多々ありますからね。子どもの頃からそういう視点をもってもらうことは非常に大事だなと、今思った次第です。

○米澤委員
　バスノートの２ページには譲り合いの席がありますが、そこのところに「携帯電話はお断り」という記載はないんですね。そういうことも含めて、内容については十分検討して頂きたいと思います。

○菊池委員長
　そういうマナーを通じて、バスというのは公共的な乗り物であって、皆で利用するんだという気持ちを養うことができれば、一番の成果ではないかと思いますね。

○足立委員
　仙台市さんとか他、いろいろご検討して頂きたい中身なのですが、今年おでかけ調べをしまして、情報がたくさんあるはずなんですけれども、案外使いづらい情報がたくさんあるんですね。今先生が、「行き先を入れれば、モニターが出てくるとか時刻が分か

るはず」と思われていますが、それがかなり高度な技術がないとたどり着けなかったりします。だから、おでかけ調べをすると壁にぶち当たると思います。そこは、仙台市さんの方で環境整備というのをこの３年間の中でご検討頂きたいと。交通局と宮城交通さんでも形式が違う。宮城交通さんの方が実は使いやすい。そういう状況もあります。公共交通機関にいっぱい、「公共交通を使ってください」ということで、交通インフォメーションがそれぞれ書いてあるんですけれども、その書き方が違うんですよね。お子さん達、例えば「科学館に行こうかな、じゃあ何で行けるかな」と見る、でもそこに出てくる情報はみんな漢字だとか。今度は「文学館に行きたい」となると、また別で分からない。そんな感じなので、せめて小学生のお子さん達の行きそうな施設くらいはですね、子どもでも分かるようなインフォメーションをホームページなり、パンフレットを作って頂くことも併せて、別なところでもどこかのところでご検討頂ければと思います。

○米澤委員

学習ツールの「みんなでおでかけ調べ」の２ページを見ると、ネット上の画面がここに書いてあり、実に扱いやすいんですよ。だからそういうことも含めて、実際にこれを使って、改善点を具体的に提案を申し上げたいと思います。

○足立委員

「おでかけ調べ」はうちで作ったんですよ。苦肉の策だったんですね。とりあえずどこでも何とか乗り切れるように。去年はどこの学校さんと一緒に来るか分からなかったので、とりあえずどこの学校さんが来ても最低必要なところだけは、という形だったので。

○菊池委員長

今年度、非常に現場の先生方もお忙しい中で、出来る範囲でご協力頂いております。ネットに関しても、可能な限り事務局が中心となってフォローアップしているんですけれども、ちょっとスタートが夏くらいでありましたので、思うような時間がとれなかったということがありますので、是非、いろいろなご意見頂いてですね。このプロジェクト、３年ございます、また次年度新しい教材を作ってですね、幅広く使って頂きたいと思いますので。いろいろ気になった点などありましたら、言って頂けたらと思います。足立委員からのお話というのは、非常に大きな話につながっていくんですけれども。やはり、この委員会として出来ることは小さいのかもしれませんけれども、やはりここで、ここだけではなくてですね、いろんなところに声を出してですね、もっと誰もが利用しやすいような交通体系の実現というものにつながっていけば幸いだと考えているんですけれども。そういう意識で我々取り組んでおりますので、大きくても小さな不満でも結構ですから、言って頂きたいと思います。広瀬小学校の２年生でしたか、目的地を変えましょうというお話でしたが、確かに広瀬図書館でしたらすぐに着いてしまいます。

○(オブザーバー)熊谷校長

また学年担当に申し上げまして、持ち帰りまして確認してみます。

○菊池委員長

メインである学習内容が変わってしまうと申し訳ございませんので、そこに影響がなく、バスのことを学んで頂けるということでお願いしたいと思います。

○米澤委員

例えば、鶴巻小学校は１年生で「秋を探しに行こう」ということで野草園に行きます。これは公園ですから。公園はどこにでもあるから。でも、事務局提案ですと地下鉄基地ですね、例えば鶴巻だとバスを利用して地下鉄基地へ行くということであれば、公共交通機関を２種類ここで学習できる、こういうメリットがあると思います。ですから、こういう複数の交通機関を組み合わせた学習プランというのは非常に有効であると考えています。

○菊池委員長

他にご意見ございますでしょうか。

○(オブザーバー)八巻主幹

プラスアルファの学習内容として、18 ページに「公共交通利用促進のためのポスターを制作する」とか、あるいは「小学校(または地域)バスマップを制作する」とあるんですが、例えば先ほどの広瀬小学校ですと、学習内容は「放送局の働き」を学ぶ、その手段としてバス、地下鉄、JR などを使う。その学習内容にプラスアルファとしてポスター制作とか、バスマップとか、しかも時期は２月なんですが、学校現場にそこまで求めることは可能なんでしょうか。

○菊池委員長

赤色の事務局提案事項ということで、全ての学習事項に付けられているんですけれども、この位置づけについて簡単にご説明頂けるでしょうか。

○事務局

基本的には、学校の先生方にまず授業計画を考えて頂きますので、最初の計画のところには、あまり行政の方がこういったものを入れて欲しいといったこと自体は言わないで、まずはお示し頂くということで。それにあと、可能な範囲でこういったものがプラスできないか、といった提案です。今年度にこういうことをやるということではなくて、今後の調整の中で、可能であれば、可能な範囲の中でやっていきたい。それを次年度以降もそういう格好でつなげていきたいということでございます。

○菊池委員長

全部をプラスアルファするというのではなくて、次年度以降にこういうものをプラスアルファすることで、また違う利用のプログラムというものができますよ、という提案なんですね。

○足立委員

議事録とかも見落としているのかもしれないのでお伺いしますが、こういう取り組みは意義があるものでして、取り組みを始めた時は、お子さんのうちから公共交通に親しむと、大人になってからもちゃんと使えるんですね。ただ、実際子ども達だけで普段バスに乗るかといえば、そうではなくて、子ども達が「いいな」と思って、お父さん・お母さんにも「乗ってよね」というふうにもつなぎたいなという思いがあったんですね。そのツールとして私どもがアンケートにご協力して頂きました。アンケートの内容そのものはすごく簡単なんですね。ただ、目的は、お子さん達に終わった後に学級会、お帰りの会の時に丸を付けてもらって、おうちに持って帰ってもらって、お父さん・お母さんに裏を書いてもらってまた持ってきてねということで、期待したのは、お子さんとお父さん・お母さんと会話をして頂きたい。「何だ、これは」と言った時に「いや、バス乗ってきたの」という。一言でもお子さんが「楽しかったから、今度お父さんもバスに乗ろうよ」ということがあれば良いかと思ったんですが。けっこう、やったところによると、「普段は乗らないけれども、今回の授業を通して子どもの話を聞いたから、いずれ乗っても良いかな」というご回答を頂けました。実際にやってみて良かったのは、秋のジュニアパスでお父さん・お母さんと子ども達がバスに乗って出かけましたよ、なんて話も学校の先生からご報告頂いたこともあるので。作業的にどういう形になるか分からないのですが、もし可能でしたら、そういうコミュニケーションツールというのでしょうか、そういうものも働きかけて頂けると、モビリティ・マネジメントの観点からも良いかなと思いますし。あと、もう一つは、継続してアンケートをとりたいと思っていたのですが、１年生から続けていけば、その子達が６年生になる頃には理解度が高くなるはずだという仮定がありましたので、今回、３年間続けて頂けるということであれば、もう少し継続して、簡単なアンケートで良いので、お子さん・親御さん達の声が頂ければ、こういうものの検証になると思います。ご協力頂ければ。

○菊池委員長

はい、ありがとうございます。事務局としてこの意見への、コミュニケーションですね、それからアンケート、継続したアンケートというのは、一つとしては、この取り組みの評価ということの位置づけにもなるかと思うですけれども、これについて、現時点で何かお考えの件はございますか。

○事務局

授業の評価、実現・実行につなげていくという意味でも、まずは子ども達だけではなくて、家庭環境、親とのコミュニケーション、そういったものを図るということもある

かと思いますので、今までの実績、取り組みの成果、これまでやってきたアンケートの調査結果みたいなものもありますので、そういったことを無駄にしないことも考えていかなくてはならないと思っていますので、継続して、その授業の振り返りなども含めたアンケート調査みたいなものも検討して参りたいと考えております。また、授業の中で、単な授業の前に何かを問いかけて、授業後に問いかけた時に、理解度を測るといった、簡単な成果も、子どもの理解なども組み合わせながらやっていければ、ということも考えております。まだ、具体的にお示しできるものはもっていないのですが、今後検討してですね、紹介して確認して頂ければと思います。今回、授業をやっていくに当たって、どの位、どういったものが、ということは今ちょっと紹介できないんですけれども、あとは作業部会など、学校の先生達と調整しながら、実施していければと考えております。

○菊池委員長

誠に重要なご指摘を頂きました。効果測定というのもそうですし、小学生だけではなくて、やはり父兄を巻き込むことによって、本当にこれが意味のあるものになっていくということのご指摘でした。ご指摘を受けまして、もう一回事務局でもその方針で検討して参りたいと思いますが。今年度に限っては非常に忙しい中、少々無理を言ってご指摘頂いている部分もありますので、学校側として父兄の方々とコミュニケーションをとるということが、100%必ずしもスムーズに受け入れて頂けるわけではないと、私ども想像しておりますので。次年度以降に皆様のご意見を反映させていきたいということで、よろしいでしょうか。はい、その他はございませんか。

○(オブザーバー)熊谷校長

オブザーバーで、大変申し訳ないのですが、私から一点。今回、この会に初めて出させて頂きました。第１回目の会議で、恐らく確認があったのではないかと思いますが、冒頭ですね、目的と目標のところで申し上げましたが、目的というのは最後は、例えば泉ヶ岳で言えば頂上に登るんだ。そのために滑降コースで登るんだとか、水神コースで登るんだとか、カモシカコースから行くんだと、何のためにっていうのが出来ますね。登るためには困難がある。だから、提案で言えば水神コースから行こうかとか。ハイキングしながら行こうとか。でも、最終的に山登り、頂上に登るんだという目的が明確であれば、その道筋っていうのは自ずからですね、学習内容にも目標にも具体的な文言で降りてくるのかなと思います。当然学習活動で。その中で、交通環境学習、これは交通学習じゃないんですよね、環境学習でもなく。したがって、交通環境とは、それを学ぶとは何なのかという目的、そのゴールイメージが明確でないと。あまり聞いた言葉ではないですよね、交通環境と。その交通環境のもつイメージが一人一人に、我々ですと浮かぶわけですが、学習のイメージそのものが。イメージはたくさんあっても良いのですが、泉ヶ岳を登るんだということにつながっていかなくなるかなと、いう気がしました。したがって、交通環境学習とはどんなものなのかっていう、そのイメージをですね、もしかするともう冒頭で、資料で出されたのかもしれませんが、そのあたりを明確にして頂けるとありがたいのかなと思います。あの、今日出して頂いた資料からは、交通環境

学習を展開するというのは理解できますが、じゃあ交通環境学習とは何かということが、すいません、私自身がよく見えなかったので。その辺りを事務局にお願いできればと思いました。以上でございます。

○菊池委員長

貴重なご指摘だと思います。交通に携わる者であれば、この単語は違和感なく理解できるとは思うんですけれども。やはり、これを広めるに当たっては、誤解なく、誰にでも理解できるように表現をおとさないといけないというご指摘だと思います。おっしゃる通りだと思いますので、検討をお願いしたいと思います。あの、時間の方がだいぶ迫って参りましたけれども。それではですね、今、ご説明、それでご議論頂きました、今年度、鶴巻小学校と広瀬小学校で実施して頂く学習の内容ですね。これ実は、実施時期のところをご覧頂くと、早いところで 12 月、来月に実施して頂くということで、進めておりますので、今日の議論の中では大きく、授業の内容についてのご指摘・ご意見はなかったと思いますので、あとはどのように運用するかということだと認識しておりますので。交通環境学習の、今回の取り組みの対象授業となりますので、我々も十分サポートして参りたいと思います。以上で本日の議事は終わらせて頂きたいのですけれども、それについて何かありましたら。

○伊勢委員

実施時期が来月からということなんですが、もし可能であれば、こういう授業というものを、校外学習は難しいと思いますが、事前の学習ということで、教室の中で、何時間かあると思うのですが、そういう授業を参観するということは可能なのでしょうか。

○菊池委員長

ありがとうございます。私もですね、事務局の方へちょっと提案させて頂いて、もし可能であれば、差し支えがなければ見学させて頂きたいということで、お願いしたいと思うのですが。差し支えあるようでしたら、かまいませんけれども。そういうことで、また話を進めさせてください。

○事務局（五十嵐主査）

特に差し支えはございません。後は、鶴巻小学校の先生方と、短期間で申し訳ありませんが、実際にお話を頂いて、先ほど出てきました全体を通してご提案頂ければと思います。よろしくお願いします。

○菊池委員長

では最後になりますが、非常に短い時間でたくさんの内容をご覧頂いて、そしてご意見頂いたんですけれども。また、持ち帰ってですね、何かご意見ありましたら。この会は、自由にいろいろな意見を言って頂いて、それを吸収して少しでも良くしていきたいと考えておりますので、事務局宛でも結構でございますし、私宛でも結構でございますので、何でもご意見のほど、おっしゃってください。

（４） その他

１） 次回開催日程の確認

○菊池委員長

それでは、もうだいぶ時間も迫ってきましたので、（４）その他、次回開催日程の確認につきまして、事務局の方でお願いしたいと思います。

○事務局（五十嵐主査）

それでは説明させて頂きます。今回、頂きましたご意見などをもとに、小学校の方と今年度実施する授業について詳細を詰めさせて頂き、12 月から２月にかけて２校で３学年ずつ合計６学年で実際の授業を実施したいと考えております。また、実施方針にもありましたように「薄く、軽く、効果的に」という事も有りますので、来年度の授業計画の中への組み込み方についても早い段階から検討を進めていきたいと考えております。そのため、第４回目の作業部会を２月中には開催したいと考えております。また、今年度の実施結果等の報告もございますので、２月下旬には第３回目の委員会を実施する予定でございます。日程の調整については事務局の方から、改めて連絡させて頂きます。

○菊池委員長

今後の日程ですね、実際に授業を行って頂いて、その後に作業部会、第４回目を開催し、そして年度末にもう一度委員会を開催する、という運びで予定しております。そのスケジュールについて、特に良いですか。それでですね、私は事務局の方に申し上げているのですけれども、来年度も継続のプログラムですから、来年度も４月からすぐスタートしたいと、委員長としてはですね、そのように考えておりまして、そういう体制をお願いしたいと、事務局の方にはお願いしております。次年度、本格的に広めていくという活動に入りますので、この第３回の委員会ですね、是非、ご都合を調整して頂いて出席して頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。それでは、本日は忌憚のないご意見を、どうもありがとうございました。それでは事務局の方にマイクをお返し致します。

５ 閉会

○事務局

それでは、総合交通政策部の岩﨑からご挨拶申し上げます。

○事務局（岩﨑部長）

どうも皆さん、大変長い時間、いろいろご議論頂きまして、本当にありがとうございました。何度も言うようで申し訳ないのですけれども、やはりこの交通環境学習、この新しい用語と言いますか、新しい取り組みの一環ということになるかと思いますが、その中でも学習プランと、この交通環境学習、特に私どもが基調に置いているのが公共交通ということです。つまり、バス・地下鉄がどれだけ身近にあって、どれだけ皆さんの暮らしを支えていけるのかということを、理解して頂けるのが基調にあるというところから、交通環境学習という大きな枠組みの中で、そこをターゲットにしようというふう

に狙っておるところでございますが、やはりそれは、いずれにしろ仙台市で暮らしていかれる方にとってみれば、地下鉄東西線が５年後に開通するということもございます。また、公共交通が今後も持続可能な交通手段として残っていくためには、やはり暮らしの中の、暮らす人達が支えていくということが、非常に重要でございます。そういう、都市があるという中で、学習者である子ども達にとってみれば、非常に良い体験ができるのではないか、ということで、私たちは期待をしているところでございます。そういった中では、非常に貴重なご意見、我々も取り組まなければいけない部分も多々ございました。そういったことも踏まえて、是非、この学習プランに活かして頂いて、今後本格的に展開できればというふうに思っているところでございます。簡単ではございますけれども、お忙しい中、今日はいろいろご議論頂きまして、本当にありがとうございました。以上を閉会の挨拶に代えさせて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。

○事務局

本日は長時間に渡るご審議、誠にありがとうございました。これをもちまして、本日の第２回仙台市小学校交通環境学習推進委員会を閉会させて頂きます。本日はありがとうございました。

議事録署名人

平成22年12月17日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　委員長　菊池　輝

平成22年12月17日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　副委員長　吉村　敏之

平成22年12月17日

仙台市小学生交通環境学習推進委員会　委員　伊勢　みやさ